

三重県津市で養豚業を営まれている大西さん。FFCテクノロジーに出会われたのは平成8年のこと。平成14年には業務用元始活水器を設置されました。

その後、様々な試行錯誤の後、素晴らしい成果をあげておられます。

こだわりをもって養豚業を営まれ、現在では販売にも力を入られています。おいしい豚肉を食べて喜んでくれる方に届けたい、そんな大西さんの活用方法を今回はご紹介させていただきます。



活用方法と  
その後の変化 ①

元始活水器の設置で環境面に大きな変化が！

地下100mから湧き出る地下水を元始活水器にてFFC処理！

平成14年8月 業務用元始活水器の設置。



夏には約50トン、冬には約25トンのFFCウォーターが豚舎全体にいきわたります。

元配管に業務用元始活水器VS型を設置。



元始活水器設置による効果

- ① 豚舎全体の臭気が減少
- ② 害虫の発生が減少

元始活水器の設置によって、豚舎内の環境が変わります。本来清潔好きな豚にとって、より快適な環境をFFCによって作りあげることができると考えられます。



快適な環境で  
子豚も元気いっぱい！



活用方法と  
その後の変化 ②

FFCウォーターとパイロゲンの活用で  
生産面・経済面にも効果が！



平成16年2月 パイロゲンの活用も開始。

週に3回、パイロゲンを直接配管内に注入されています。パイロゲンの1000倍希釈液が、豚舎内への噴霧や豚の飲み水などとして大きな役割を果たしています。

大西さんは、以前パイロゲンの発酵の問題(※1)に悩んでおりましたが、一定の速度でパイロゲンを落とすことのできる装置を使って、この問題をクリア！

※1 夏の高温や多湿によって、パイロゲン希釈液が長時間空気に触れた場合には、発酵が起こったり、白濁するなどの問題がおきる場合がある。

パイロゲン併用による効果

- ① 飼料要求率(※2)が向上
- ② 伸展率(やわらかさ)の向上
- ③ 産子数が増加
- ④ 事故率の低下

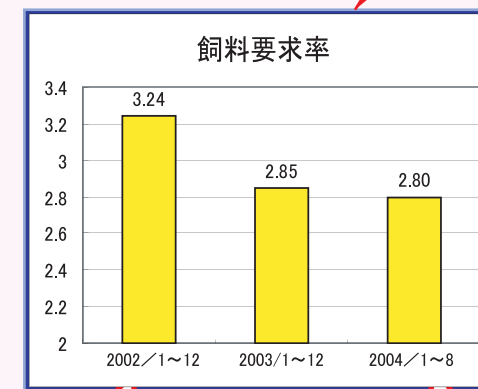


結果として

飼料要求率の向上による飼料代の減少など、生産面での効果によって経済面にも大きな効果が！

飼料要求率が 3.24 → 2.80 に向上！

※2 飼料要求率とは、肉1kgを生産するのに必要となる飼料の量(kg)です



月に 11%もの経費削減 に！

平成14年8月  
元始活水器の導入

平成16年2月  
パイロゲンの活用も開始

また、最近では母豚や子豚に与える飼料にFFCミネラルを添加されています。今後どのような変化が現れてくるのか楽しみです！

こだわり！

代表取締役 大西 良和 様

「どのような点にこだわりをもって養豚業を営まれていますか？」との質問に、「全部です」と答えられた大西さん。生産物をただつくるだけではなく、その生産物を食べていただくお客様の健康を考えることも大切、お客様に喜ばれるものを作り、おいしさのわかる人になりたい、とおっしゃっていました。

大西畜産様の詳細などについては、下記のアドレスにてご覧いただけます。

<http://www.rakuten.co.jp/gankooyazi/>

大西さんのこだわりと熱意が、お客様に喜ばれる秘訣なのだと感じました。お客様と大西様の間に、安心と信頼の良い関係が全国各地に広がっていくことを期待しております。

取材：合田

